様式第 1-4（2018.4.1 版）

消化管粘膜下腫瘍(SMT)に対するボーリング生検の有効性に関する検討

**１．研究の対象**

2015 年から 2020 年の間に当院で、粘膜下腫瘍を指摘され内視鏡検査を受けられた方。

**２．研究目的・方法**

目的：消化管（食べ物が通る臓器）の粘膜下腫瘍（SMT)は、癌などの上皮性腫瘍と異なり、表面に腫瘍は露出していない事が多く、粘膜の下に腫瘍が存在するため、通常の内視鏡での生検では組織は採取が困難です。確実な組織の採取方法として EUS-FNAB(超音波内視鏡下穿刺吸引生検)という針生検が推奨されています。過去に高い検体採取率が報告されていますが、入院を要する事、専用の内視鏡装置,熟練した手技が必要な事から、どこの施設でも簡単に行える検査ではない事が問題とされています。他の組織採取法として、粘膜表面から深部に向かって、穴を掘るように同じ部位から鉗子生検を繰り返し、SMT の組織を採取する、いわゆる「ボーリング生検」という方法が古くから行われています。外来で内視鏡検査の流れで行う事が可能であるメリットがありますが、低い組織採取率が過去に報告されています。今回ボーリング生検の方法を再考し、その有用性を検証する事を目的として検討を行う事にしました。ボーリング生検は、内腔（内方）に発育する SMT が対象となります。ボーリング生検の有用性が分かれば、まず外来でボーリング生検を行い、組織採取が困難な場合、入院して頂き、EUS-FNAB を行うという診断の流れがより明瞭になると考えます。

**３．研究に用いる試料・情報の種類**

試料：なし

情報：病歴、カルテ番号、内視鏡画像　等

**４．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター　消化管内科　上堂文也／松浦倫子
住所：〒５４１－８５６７　大阪市中央区大手前３－１－６９
電話：０６－６９４５－１９００

研究責任者：
大阪国際がんセンター　消化管内科　上堂文也

----------以上